令和３年度　研究サマリー

研究会名称	腎疾患の発症・病態生理と進展防止に関する研究会	
代表者所属	東京女子医科大学　腎臓内科	
代表者氏名	新田　孝作	印

研究方法・結果

令和３年度の研究プロジェクトの目的は、優性遺伝性多発性嚢胞腎(ADPKD)における腎予後に対するトルバプタン治療の効果について、濃度依存性の影響を検討することです。

対象は、東京女子医科大学腎臓内科の外来に通院中の ADPKD 患者で、CT により評価した総腎容積(TKV)が 750ml 以上で、年間の TKV 増加率が 5%以上の症例を対象としました。eGFR が 15ml/min 未満の症例は除外しました。92 例が対象となりましたが、不適例を除いた 92 例が評価対象となりました。

平均年齢は 42.9 歳で、男性が 56 例、平均観察期間は 2.52 年でした。最初の平均トルバプタン量は 56.9mg で、観察終了時には 84.1mg でした。開始時の eGFR は 53.2 ml/min で、TKV は 1217 ml でした。

体重補正トルバプタン服用量と eGFR 上昇率には正の相関を認めました。多変量解析では、体重補正トルバプタン服用量、ヘモグロビン、eGFR、および尿蛋白量が腎予後を規定する因子として抽出されました。しかし、TKV へ与える影響に関しては有意な結果が得られませんでした。

これらの結果から、ADPKD に対するトルバプタン治療においては、濃度依存性の腎保護効果が期待されると考えられました。

研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）

1　Akihisa T, Manabe S, Kataoka H, Makabe S, Yoshida R, Ushio Y, Watanabe K, Mochizuki, T, Iwadoh K, Ushio Y, Watanabe S, Watanabe K, Sato M, Tsuchiya K, Mochizuki T,　Nitta K: Dose-dependent effect of Tolvaptan on renal prognosis in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease. Kidney360 2021: 2(7): 1148-1151.